

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 5日現在

機関番号：37105

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520284

研究課題名（和文） アフリカ系アメリカ文学と視覚芸術における奴隷制度の表象

研究課題名（英文） Representation of Slavery in African American Literature and Visual Arts

研究代表者

宮本 敬子（MIYAMOTO KEIKO）

西南学院大学・文学部・教授

研究者番号：60182044

研究成果の概要（和文）：アメリカ合衆国における歴史的トラウマである奴隷制度は、過去の出来事を記憶する体験者や証言者がいなくなった世代のアフリカ系アメリカ人芸術家たちによって、どのように想像され表象されてきたのか。トニ・モリスン（Toni Morrison）とキャラ・ウォーカー（Kara Walker）という現代アメリカ文学・視覚芸術を代表する黒人女性芸術家に焦点をあて、共同体の歴史的トラウマをどのように次世代に伝えていくのかという現代的課題への取り組みを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In an attempt to explore how African-American literature and arts of the post-memory generation have represented the historical trauma of American slavery, this study focused on Toni Morrison's influence on Kara Walker's visual arts, or the interaction of their imaginations, and illuminated the ways in which both artists work on the crucial issues of representing traumatized history in the contemporary world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：アフリカ系アメリカ文学、奴隷制度の表象、視覚芸術、トニ・モリスン、キャラ・ウォーカー、トラウマ表象、人種表象、ジェンダー表象

## 1. 研究開始当初の背景

アメリカ合衆国における歴史的トラウマである奴隷制度は、ポストメモリー（post memory）世代、すなわち過去の出来事を記憶する体験者や証言者がいなくなった世代のアフリカ系アメリカ人芸術家たちによって、どのように想像され表象されてきたのだ

ろうか。ポストメモリー世代の芸術家たちの取り組みは、戦争やホロコースト、テロや災害など、共同体の歴史的トラウマとなった出来事をどのように次世代に伝えていくのか、という現代的課題の探求でもある。

本研究は、そのような課題を解く重要な鍵として、歴史的・文化的に「他者のなかの他者」とされてきた黒人女性の経験に注目した。

特に、トニ・モリスン (Toni Morrison) と キャラ・ウォーカー (Kara Walker) という現代アメリカ文学・視覚芸術を代表する黒人女性芸術家に焦点をあて、歴史のなかの「語りえぬもの」がどのように表象されているのかを明らかにすることを主眼とした。

アメリカ合衆国における公民権運動以降の時代、アフリカ系アメリカ文学および視覚芸術に共通して現れた注目すべき現象は、奴隷制度が作品のテーマや舞台として復活したことであるが、その社会的・文化的要因の解明や、アフリカ系アメリカ文学と視覚芸術との比較研究はその端緒を開いたばかりである。本研究では歴史的コンテキストとして、1970年代以降に台頭し、奴隷制度を題材としている黒人女性作家およびアーティストにも注目し、黒人女性芸術家が、アフリカン・アメリカンの歴史を再構築しようとするとき、歴史のなかの「語りえぬもの」をどのように表象しようとしているのか、その想像力のあり方を、文学と視覚芸術の比較研究を通して探求する。

文学と視覚芸術の比較研究が有効なのは、歴史的トラウマの表象がしばしばイメージやピクチャーやアイコンの形をとって現れるということにある。文学においても、トラウマ的体験を言語化しようとする試みにおいて、イメージやピクチャーやアイコンとして視覚的に表現されることが多い。文学は歴史的トラウマを表象する視覚芸術に物語性を付与し、視覚芸術は文学のなかの視覚的表現をより鮮明に具現化することができる。モリスンとウォーカーが取り組んでいる「語りえぬものを語る」あるいは歴史的トラウマを表象するという困難な課題を、文学と視覚芸術を相互作用させて解き明かすことにより、刺激的で興味深い研究へと発展させていくことが可能であると考えた。

1993年に黒人女性として初めてノーベル文学賞を受賞したモリスンと、既存の芸術制度から数多くの栄誉を与えられ、今アメリカで最も注目されるアーティスト、ウォーカーは、ともに現代アメリカを代表する黒人女性芸術家である。モリスンとウォーカーの芸術的想像力の近似性に関しては、ウォーカー自身が、歴史や文学にインスピレーションを受けて創作していることを認めていることもあって、視覚芸術の分野においてはすでに指摘されている。しかし視覚芸術の分野における研究は、モリスン文学に深く分け入っておらず、その指摘は表面的なものにとどまっている。一方、文学の分野においてモリスンをウォーカーと比較した研究は、日本において

もアメリカにおいても、まだほとんど見られない。筆者は博士論文(2006)において、モリスンの *Paradise* における女性表象とウォーカーのシルエット (切り絵) における女性表象との類似性について指摘し、それをもとに精神分析学の知見を援用しつつ、トラウマ表象のジェンダー化という観点から、日本アメリカ文学学会全国大会 (2007) において発表した。さらに 2008年10月には、日本英文学会九州支部大会シンポジウムにおいて、ウォーカーとモリスンの歴史再構築における人種・ジェンダー表象の比較研究を発表した経緯から、本研究の有効性と可能性を確信するに至った。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究では、第一段階として、これまでの研究成果にモリスンの最新作 *Mercy* (2008)(奴隷制度の萌芽期を舞台とした小説) の考察を加え、①二人の芸術家がアメリカ南部の神話および奴隷制度の歴史的アイコンとされてきたものをどのように書き換えているか、②奴隷制度にまつわるトラウマ記憶をどのように表象しているか、さらには③白人主流社会において性的・身体的存在として刻印されてきた黒人表象をどのように書き換えているのかについて分析する。さらに、日本ではあまり知られていないモリスンとウォーカーのコラボレーションである詩集 *Five Poems* (2002) について考察することで、二人の影響関係を明らかにし、二人が芸術家の社会的役割についてどのように考え、またどのような活動をしているかについても明らかにする。

(2) 本研究の第二段階としては、モリスンやウォーカーと同時代の黒人女性芸術家たち、具体的には、1970年代以降に台頭してきた黒人女性芸術家で、奴隷制度を題材としている作家に注目し、比較研究をおこなうことによって、奴隷制度・人種・ジェンダー表象の変遷、およびモリスンやウォーカーとの影響関係をこうさつ解明する。

(3) もちろん奴隷制度を表象してきたのは、黒人女性芸術家ばかりではない。黒人男性芸術家、白人作家や芸術家によっても奴隷制度は題材とされ、その相互作用のなかからアメリカにおける奴隷制度の表象は生まれてきたといえる。本研究の第三段階としては、それまでの研究成果をより広いコンテキストにおいて、黒人男性芸術家や白人芸術家をも視野に入れたうえで、「他者のなかの他者」としての黒人女性芸術家の立場が、歴史的ト

ラウマを表象し次世代に伝えていこうとするうえで、どのような意義を生み出しているのかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究の全体的な方法論的枠組みとしては、新歴史主義と精神分析学という対立的に捉えられがちであった二つの理論を、文学・視覚芸術研究において融合させるという方法をとる。歴史的トラウマの表象を分析するには精神分析学の理論が必須であるが、具体的な歴史資料や視覚表象は、抽象的で難解になりがちな精神分析学理論に具体性を与え、刺激的で興味深い研究へと発展させていくことが可能である。

(2) 本研究の中心となるトニ・モリスンとキャラ・ウォーカーの表象比較研究については、歴史的・文化的にヴィジュアルな資料を追加していくことによって、より鮮明に浮かび上がらせていく。そのために必要な調査として、ニューヨーク公立図書館および同図書館ショーンバーグ分館、ニューヨーク歴史協会において、黒人文化・歴史関連の資料収集を行う。さらには、ニューヨーク現代美術館、メトロポリタン美術館、ホイットニー美術館、ブルックリン美術館、シッケマ・ジェンキンス・ギャラリーなどウォーカーの作品を所蔵、展示している美術館において、ウォーカー関連の調査・資料収集を行う。

(3) 二人の芸術家を同時代の黒人(女性)芸術家というコンテキストに置きなおして、奴隷制度の表象あるいは歴史的トラウマの表象の変遷という観点からの比較研究を行い、他の芸術家との影響関係を明らかにする。さらには、それまでの研究成果を「アメリカ文学と視覚芸術における奴隷制度の表象」というより広いコンテキストのなかで考察し、歴史的流れを概観できるような研究へとまとめていく。①ウォーカーやモリスンと同時代の黒人女性芸術家たち、具体的には、1970年以降に台頭してきた、奴隷制度を題材としている作家たち(Gayle Jones, Carolivia Herron, Barbara Chase-Riboud, Octavia Butler, Alice Randall, Margaret Walker)、およびアーティスト(Faith Ringgold, Marianetta Porter)を研究する。特に、モリスンが影響をうけたというジョーンズ、またランダムハウス社でモリスンが作品の編集に関わっているヘロンに焦点をあてる。②これらの芸術家に関する調査として、ニューヨーク公立図書館および同図書館ショーンバーグ分館、ニューヨーク歴史協会、ハーレムのステュディオ・ミュージアムにおいて、黒

人文化・歴史関連の資料収集を行う。さらには、ワシントンのスミソニアン博物館および国会図書館にて、奴隷制度関連、南部プランテーション関連、黒人文化・歴史関連の資料収集を行う。

(4) 本研究の成果をまとめる際に、国内外の関連学会に参加・発表し、国際的に活躍する研究者や専門家との意見交換や交流をとおして、研究成果のさらなる向上を目指す。特に、2010年にパリ(フランスで開催されるトニ・モリスン学会)で発表し、国際学会参加の成果を反映させたいという論文を出版する。

### 4. 研究成果

(1) 本研究の主眼であるトニ・モリスンとキャラ・ウォーカーの表象比較研究については、①モリスンのいわゆる愛の3部作と呼ばれる『ピラヴド』『ジャズ』『パラダイス』が、ウォーカーのアーティストとしてのデビューおよび発展に大きな影響を与えていることが、ウォーカーの個展史、インタビュー記事、さらには各展覧会でのテーマや表象分析を行うことによって実証された。とりわけ、ウォーカーが『ピラヴド』にインスピレーションを受けて作成したシルエット・アートの全貌を明らかにし、それがモリスンのオペラ『マーガレット・ガーナー』の上演の際に展示されていたことも判明した。さらには、ウォーカーが『アンクル・トムの小屋』をテーマに作成し物議を醸したシルエット展がモリスンの『パラダイス』執筆時に開催されていたことから、二人の芸術家がそれぞれの作品を通してコール・アンド・レスポンスを行っているさまを、精神分析学の知見をもとに分析した。②上記の発見をもとに、二人の芸術家がアメリカ南部の神話および奴隷制度の歴史的アイコンとされてきたものをどのように書き換えているか、奴隷制度にまつわるトラウマ記憶をどのように表象しているか、さらには白人主流社会において性的・身体的存在として刻印されてきた黒人表象をどのように書き換えているのかを、歴史的・文化的にヴィジュアルな資料を追加していくことによって、より鮮明に浮かび上がらせ、2010年にパリで開催されたトニ・モリスン国際学会にて発表した。国際学会参加による世界的なモリスン研究者との意見交換を経て、研究成果を英語学術論文としてまとめ、学会誌に発表した。モリスンとウォーカーの本格的な表象比較研究は、本論文が国内において初めてのものであり、国外においても包括的なものとしては初めての成果であると自負している。この研究成果については、論文出版と同時に2つの全国的学会でも発表し、論文に収めきれなかった映像資料を公表す

ることによって好評を博した。

(2) モリスンの人種・ジェンダー表象を考察する過程において、彼女の最新作である *A Mercy* (2008) (奴隷制度の萌芽期を舞台にし、白人奴隷所有者と黒人奴隷、白人年季奉公人、ネイティブ・アメリカンとの関係を描いた) の考察を加えるため、この作品に関する資料収集と作品分析を行い、その成果を2010年の日本英文学会九州支部のシンポジウムにおいて発表した。また、モリスンと視覚芸術との関係について調査・資料収集を行う過程において明らかになったモリスンの『ジャズ』と画家ジェイコブ・ローレンスとの影響関係についても、2012年の日本英文学会九州支部のシンポジウムにおいて発表した。この2件の研究成果についても、学術論文として出版予定である。

(3) 二人の芸術家を同時代の黒人(女性)作家・芸術家というコンテクストに置きなおすために、ニューヨーク公立立図書館および同図書館ショーンバーグ分館、ニューヨーク歴史協会、ハーレムのステュディオ・ミュージアム、さらには、ワシントンのスミソニアン博物館および国会図書館にて、奴隷制度関連、南部プランテーション関連、黒人文化・歴史関連の調査・資料収集を行った。その成果を「アフリカ系アメリカ文学と視覚芸術における奴隷制度の表象」という14回にわたる講義としてまとめ、その成果をさまざまな映像資料を用いることによって大学教育の場に還元した。

(4) 本研究の2つの柱であるトラウマ表象と精神分析学に関する研究成果をもとに、グローバリゼーションと文学に関する批評書『世界文学史はいかにして可能か』(共訳)の中のカリン・ボールの論文「文学史のための原初の自然の逆襲と、他の擬人化された投影」を翻訳した。この翻訳作業によりトラウマ表象とグローバリゼーションの関係を明らかにすることができた。また、この批評書翻訳に関わることで、植民地主義による奴隷制度とアフリカ系アメリカ人の移住の問題が、現在のグローバリゼーションの問題とも深いかわりがあることを確認する良い機会となった。

(5) 本研究費によって可能になった海外での資料収集および国際学会出席によって、世界的に著名なアフリカ系アメリカ文学研究者と交流することができただけでなく、トニ・モリスンの講演、現代における奴隷制度表象の重要な小説『中間航路』の作家チャールズ・ジョンソン氏の講演、キャラ・ウォーカーとオノ・ヨーコの講演及び対談、ヴェトナム戦争体験者の証言執筆支援活動を行っているアジア系アメリカ人女性作家マキシ

ーン・ホーン・キングストンによる講演、さらには、アフリカ系アメリカ人の移住に関するノンフィクションで全米批評家賞を受賞したイザベル・ウィルカーソンの講演会等に出席するという、きわめて貴重な機会を数多く得た。また、オハイオ大学教授 Amritjit Singh 氏を日本に招聘し、アフリカ系アメリカ人とアジア系アメリカ人の移住と市民権をめぐる講演会(英文学科主催)を開催した。この講演会は、アメリカの奴隷制度によるブラック・ディアスポラの経験が、アフリカ系アメリカ人のみならずマイノリティーの人々の共通体験として現代にまで続いてきたことを明らかにするもので、学科を超えて多数の出席者を得た。本研究のテーマである歴史的トラウマとしての奴隷制度の表象研究の現代的意義を確認する良い機会となった。さらに研究期間終了翌年度になったが、本研究の成果は大学の公開講座として一般聴衆にも公表した。

(6) 本研究は、第二次大戦や原爆投下など、現代世界における歴史的トラウマを経験し、今なおそれらを共同体のトラウマとして抱え続けている日本という国家や日本人にとっても、きわめて関連の深い研究である。また、本研究期間中に起きた東日本大震災という出来事が、どのようにして歴史的トラウマとなり、次世代に伝えられていくのかという課題とも深く関わっている。近年日本においても活性化しているトラウマ表象研究の成果も視野に収めつつ、また異なる分野の研究者との交流も行うことによって、本研究は学際的な研究へと広がっていく可能性を有している。日本において、第二次大戦や原爆を実際に経験していない世代のポストメモリーの行方はどのような方向に向かっているのだろうか。また大震災のような、共同体の歴史的トラウマを経験した者が、それらを表象し伝えていこうとすると、文学や芸術はどのような役割を果たしていくことができるのだろうか。そのような課題をも視野にいれつつ、世界で唯一の被爆国に生きる研究者として、また大震災や原子力発電事故という現実に生きる日本人として、研究成果を海外に向けて発信していきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① KEIKO MIYAMOTO, Toni Morrison and Kara Walker: The Interaction of Their Imaginations, *Japanese Journal of*

*American Studies*、査読あり、Vol. 23、2012、  
231-261

[学会発表] (計6件)

①宮本 敬子、Toni Morrison, *A Mercy* と  
「アフリカニスト」誕生以前のアメリカ、日  
本英文学会第63回九州支部大会、2010年10  
月30日、九州大学

②KEIKO MIYAMOTO (宮本 敬子)、Toni  
Morrison and Kara Walker: How to  
Represent Race and Gender in  
Reconstructing African American  
History、The Sixth Biennial Conference of  
the Toni Morrison Society、2010年11月  
5日、Universite de Paris 8-Sain Denis、  
パリ、フランス

③宮本 敬子、Call and Response— Uncle  
Tom's Cabin, Beloved, Kala Walker の場合、  
黒人研究の会第58回全国大会、2012年6月  
23日、国士舘大学

④宮本 敬子、Toni Morrison と Kara  
Walker における奴隷制度の表象、多民族研究  
学会第18回全国大会、2012年7月28日、青  
山学院女子短期大学

⑤宮本 敬子、トニ・モリスンの描くグレー  
ト・マイグレーション、日本英文学会第65  
回九州支部大会、2012年10月27日、九州産  
業大学

⑥KEIKO MIYAMOTO (宮本 敬子)、  
Traumatizing Literary History in the  
Global Age, ELLAK International  
Conference、2013年12月13日、BEXCO、釜  
山、韓国

[図書] (計1件)

①宮本 敬子、森あおい共訳、木内徹、福島  
昇、西本あづさ監訳、成美堂、世界文学史は  
いかにして可能か、2011、362

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

宮本 敬子 (MIYAMOTO KEIKO)

西南学院大学・文学部・教授

研究者番号：60182044

### (2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
なし ( )

研究者番号：